

2017年度 事業報告書

特定非営利活動法人暮らしネット・えん

1. 事業の成果

最近、地域の中に活気がなくなっていると感じる。高齢者ばかり目に付き、子どもの遊ぶ声が聞こえない。空き家やシャッターの閉まった店舗、一億総活躍社会といった標語がむなしく響くばかりだ。

大きく見渡すと、若年人口の減少で全職種の人材難、実感のない景気浮揚の中、国を挙げての社会保障費削減が進んだこの年度、介護保険法改定が年度初めに可決され、年度末に向けて介護報酬改定が決まった。超高齢社会本番に向けて介護職員不足は深刻化する一方だが、具体的な改善策は全く示されていない。改定のキーワードは「地域包括ケアシステムの深化・推進」だが、これでは超高齢化が進む地域は崩壊してしまうのではないのか、不安が募った。

それでも、暮らしネット・えんは『元気』を実感することが多い1年だった。決算状況はこれまでになく好調であり、念願の事務所増築を8月に竣工、新しく始まった『だれでも食堂にいざ』は地域の新たな『居場所』として定着しつつある。職員の応募も若干あり、退職者より入職者が多くなっている。地域に根差して地道に活動を続けてきた成果と言ってよいだろう。

課題である管理職の交代はグループホームえんで実施できたが、高齢化が進むケアプランえんケアマネジャーの新規採用、法人の中心を担う世代交代は達成できずに終わった。

地域の居場所えん「名乗るほどのものではない」人々に支えられる 4月、『だれでも食堂にいざ』がスタート、「子ども」だけでなく孤食の中高齢や障がいがある人々を含めて参加できる場所にしたいと、「だれでも」と名づけた。願ったとおりに地域から多様な人々が集まり、平均50人を超える人々が集う新たな「居場所」が形になった。食事にくる人だけでなく、調理やレクリエーションを担当する人、「少しばかりだけ」と食材を差し入れる人、様々な係わり方がある。全員がボランティアで、本職は別に持つ30代、40代の女性を中心になって担っていて、地域で活動を続けてきた高齢者が支える形になった。ボランティア活動からスタートした暮らしネット・えんが、NPO発足14年目に新しいボランティア事業をスタートさせることができた。

4年目の認知症カフェにも地域からの新しい参加者が着実に増えた。介護サービスや医療受診に繋がらない認知症当事者を地域のボランティアが誘って参加したり、ご近所の介護家族を誘って相談に見える方もあった。高齢者相談センターから紹介があった若年性認知症男性は、えんの庭掃除ボランティアを経てデイホームえん利用に繋がった。なかなかサービス利用に繋がらない認知症の方の参加もあり、ケアマネジャーや高齢者相談センター職員が様子を見る場としても活用されていた。

各事業に係わるボランティアも増えた。2月に開いたボランティアミーティングには、えんボランティア歴20年近いベテランから昨日から始めた人まで経歴や年齢も多様だ。この方々の多くが、「えんの一員」と思っておられるのが、えんの特長だろう。また、「だれでも食堂」に毎回お米を届けてくれる方、まどかの掲示板を作ってくれた方が、お二人とも「名乗るほどのものではない」と言われたことにあらわされるように、さりげなく支えてくれる近所の方々の存在を強く感じた年度でもあった。利用者も、職員も、ボランティアも、地域の人々も、共に集える『場』になっていることを実感した。

なぜ好調だったか さて、改めてなぜ今年度業績が好調だったか、考えてみたい。全業種で人手不足が深刻化する中で、介護の有効求人倍率はトップを走る。暮らしネット・えん全体を見ると、各事業所は「もう少し人手が欲しい」状態だが、深刻な人手不足には陥っていない。離職率は低く、年度内の退職者は4名にとどまった。勤続10年を超える職員は4割を占める。ベテランの域に入った職員が多いと、安定した対応ができるので、「困難事例」と言われるような利用者のケアも可能になる。各事業報告にも、ケアの成熟が伺える事例が見られるので、ご一読いただきたい。

長年かかって築いてきた地域との信頼関係も好調の要因として挙げられる。利用者は全て地域住民、職員の9割が新座市と隣接自治体に暮らす、地域密着型NPOである。利用の問い合わせも、介護職員の紹介も地域からだから、『地域包括ケアシステム構築』などと言われずとも、地域と共に活動するのがあたりまえで続けてきた。その結果が、この数年の業績に現れたとあってよいだろう。

しかし、60代以上の職員は全体の4割を占める。今後、新しい職員を得て次世代を育てないと、えんを維持することはできない。えんの職員が減っていけば地域の介護状況が悪化する。そして、業績は落ち込む。負のスパイラルに落ち込まないように、気持ちを引き締めて次年度に繋げたい。

2. 事業の実施に関する事項（2017年4月1日～2018年3月31日）

（1）特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
居宅介護支援事業	居宅介護支援の提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	受給者の自宅	4人	要支援・ 要介護者 152人	29,481
訪問介護事業	訪問介護の提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	受給者の自宅	50人	要介護・ 要支援高齢者 132人	94,337
障害福祉サービス事業	障害福祉サービスの提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	受給者の自宅	46人	障害児・障害者 49人	訪問介護事業に含む※
通所介護事業	通所介護の提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	デイホームえん	6人	認知症 要介護者 31人	15,925
認知症対応型共同生活介護事業	認知症高齢者の共同生活介護事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	グループホームえん	10人	認知症 要介護者 13人	50,038
小規模多機能型居宅介護事業	小規模多機能型居宅介護の提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	多機能ホームまどか	17人	要支援・ 要介護者 33人	55,145
介護予防事業	介護予防の提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	予防各事業を含む	一人	一人	各介護事業に含む※2
移送サービス事業	移送サービスの提供事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	法人事務所	15人	移送会員 33人	26
グループリビング事業	高齢者生活共同運営住宅事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	グループリビングえんの森	3人	入居者 10人	13,523
障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業	障がい者に対する相談支援事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	受給者の自宅	6人	障害者 60人	居宅介護支援事業に含む※3
児童福祉法に基づく障がい児相談支援事業	障がい児に対する相談支援事業	H29.4.1～ H30.3.31 随時	受給者の自宅	3人	障害児 105人	居宅介護支援事業に含む※3

調理・配食事業	高齢者配食サービス事業	H29.4.1~ H30.3.31	グループリビング グ内厨房	13人	配食利用者 延 17,261人	20,704
各種相談・高齢者障がい者生活関連調査事業	各種相談・高齢者障がい者生活関連調査の提供事業	H29.4.1~ H30.3.31 随時	多機能ホーム まどか グループリビング グえんの森	3人 2人	相談者 6人 参加者 70人	68
介護セミナー・研修事業	介護実習生受入 ケア講座	随時 12回 3回	各事業所 えんの森 市立中央公民館	9人 5人 8人	実習生 15人 参加者 45人 参加者 58人	128
地域交流事業	認知症カフェ ウォーキングの会 やさいもタイム	12回 H29.12.10 H29.12.3	えんの森 北斎美術館 えん庭	5人	参加者延べ 720人 参加者 14人 参加者 103人	466
文化事業	まどかコンサート みんなのコンサート	— H29.11.17	多機能ホーム まどか 新座市中央 公民館	30人	翌年度4月に 開催 参加者 220人	176

※1 障害福祉サービス事業は訪問介護事業に含まれる。

※2 予防訪問介護、予防小規模多機能型居宅介護はそれぞれ訪問介護事業、小規模多機能型居宅介護に含まれる。

※3 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業、児童福祉法に基づく障がい児相談支援事業は居宅介護支援事業に含まれる。

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)